

## 第6学年2組 国語科学習指導案

平成30年 6月20日(水) 指導者 米多 康輔

### 1 単元名 人物と人物との関係を考えよう「風切るつばさ」(東京書籍)

### 2 「学びに向かう力」を育成する手立て

本実践では、児童が自ら「問い」を見いだそうとする姿(主体的で深い学び)を引き出すことをねらう。本時では、中心人物であるクルルの心情を読み取るため、「クルルが一番沈んでいる場面はどこか。」と問い、場面ごとの心情を読み取らせていく。

#### (1) 児童の既有的知識・技能を引き出すめあてや課題の設定

児童はこれまでの学習で、物語を小さな場面に分け、場面の内容を短くまとめている。全七場面ある中で、一から六場面はマイナスな心情で、七場面がプラスの心情になっている。つまり、最後の場面に中心人物であるクルルの変容した姿が描かれている。そこで、心情曲線を使い、場面ごとのクルルの心情を考えさせる。その後、一から六場面の曲線に着目させると、形にそれぞれ違いが出てくると予想される。その時に、児童の思考にズレが生じ、「なぜ、形が違うのか。」「どの曲線が正しいのか。」と問いが生まれる。そこで、「一番クルルが沈んでいる場面はどこか」というめあてを提示し、課題解決にあたらせる。問題解決型のめあてを提示することで、児童の学習意欲を引き出すとともに、意見をもち、全員が同じスタートラインに立てるようにしたい。

#### (2) 板書を軸として、児童同士の思考をつなぎ、納得を促す教師の手立て

本時に限らず、国語科の学習において、根拠(叙述)から理由づけし、意見をもてるようにすることを大切にしたい。そこで、一番クルルが沈んでいるのかが分かる言葉や文に着目させ、それを共通理解するために、黒板には全文プリントを掲示する。また、児童の意見や根拠(叙述)、理由づけを整理しながら、板書したい。そうすることで、他者の考えと自分の考えを比較しやすくし、考えを深めたり、新たな問いを生み出しやすくしたりする。さらに、「心情を表す言葉」を掲示し、その中から人物の心情に合う言葉を選択させ、心情を考えやすくする。

### 3 単元の目標

人物と人物との関係を手がかりに、人物の心情を考えながら読むことができる。

- (1) 人物どうしの関係をとらえながら、中心となる人物の心情の変化を読もうとしている。【関心・意欲・態度】
- (2) 中心となる人物の心情の変化を、人物どうしの関わりを考えながら読んでいる。【読む能力】
- (3) 物語を読んで考えたことを、本文の叙述と自分の感想との関係を考えながらまとめている。【書く能力】
- (4) 物語の中で使われている表現の工夫に気づき、人物の心情を考える手がかりにしている。【知識・理解・技能】

### 4 指導計画(8時間取り扱い)

時間	内容
1	教材文を読み、初読の感想を書く。
2	全文を小さな場面に分ける。
3	物語の設定を読み取る。
4 本時	クルルの心情がどのように変化したかを読み取る。
5	クルルがなぜ飛べるようになったのかを読み取る。
6	心情の読み取り方をまとめる。
7	関連図書で読み取ったことをリーフレットにまとめる。
8	リーフレットの内容を紹介し合う。振り返りをする。

## 5 本時の学習

### (1) 目標

クルルの心情の変化を叙述から読み取ることができる。

### (2) 展開

過程	時間	学 習 活 動 T発問・指示 C児童の反応	・指導上の留意点 ◇評価	備考
導入	10	1 大まかなあらすじを確認する。 【一斉】 T場面ごとのクルルの気持ちを考えましょう。 T七の場面はプラスの気持ちだけど、それ以外の場面はマイナスの気持ちですね。クルルの気持ちが一番沈んでいるのはどの場面でしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大まかなあらすじを確認し、場面ごとの内容を押さえる。</li> <li>・心情曲線を使い、クルルの心情を予想させる。形の違う心情曲線をいくつか黒板に提示することで、思考のズレを可視化させる。</li> <li>・問題解決型のめあてを提示することで内容の焦点化を図る。</li> </ul>	全文プリント 短冊 小黒板
展開	5	2 なぜ、その場面を選んだのか理由と根拠を考える。【個人】 Tなぜ、その場面を選んだのか、理由と根拠（叙述）を考えましょう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全文プリントで根拠（叙述）を示しながら発表させる。</li> <li>・心情が分かる叙述を短冊に書いて黒板に貼り、理由を述べやすくする。</li> </ul>	マーカ ーペン 短冊
	25	3 考えを共有する。【一斉】 Tその場面を選んだ理由、根拠を发表しましょう。 C私は五の場面だと思います。「どうでもよくなった」や「最後のプライド・・・」と書いてあるところから、クルルの絶望している様子が分かるからです。 C私は六の場面だと思います。七の場面で飛べたので、その前の六場面が一番沈んでいると思います。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ クルルが沈んでいる場面を選び、理由を叙述から考えている。 読（発言・ノート） 〈B基準に満たない児童への手立て〉 着目すべき叙述が書かれたヒントカードを与え、そこから理由を考えさせる。</li> </ul>	ヒント カード
まとめ	5	5 学習をまとめる。【一斉、個人】 Tなぜ、五の場面が一番沈んでいると分かりましたか。 C五の場面はクルル一人で絶望している様子が分かる言葉があるからです。 C六の場面はカララが登場し、飛ぶきっかけとなった場面だから、その前の五の場面が一番沈んでいます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・六の場面はカララが来た場面であり、二や七の場面からカララが存在がクルルにとって大切であることから五の場面が一番沈んでいることに気づかせる。</li> </ul>	

めあて

クルルの気持ちが一番沈んでいるのはどの場面か。

まとめ

一番沈んでいる場面は五の場面。なぜなら、「どうでもよくなった」や「最後の・・・」と書いてあり、クルルが絶望している様子が分かるから。